

係者の責任感（オーナーシップ）、積極的な地域的取り組みによる教育の持続可能性の実現、各段階における実績のモニタリングと評価等が、この都市間協力プロジェクトを進めるにあたっての重要な問題として認識された。

#### 事例6ーチェグトゥ（ジンバブエ）：ヒントン（カナダ）との連携による財務管理の改善

**都市連携の背景：**財務管理上、様々な問題点を抱えていたチェグトゥが直接的にヒントンにコンタクトし都市連携を実現させた。チェグトゥは、財務管理分野におけるカナダの専門知識を利用できるようになっている。

**成果／教訓：**チェグトゥの財務および財政をコンピュータ化した結果、その歳入基盤は大きく改善され、徴税率は75%に達した。チェグトゥの会計を定期的かつ的確に監査できるようになって以来、世界銀行から融資を受けられるようになった。南側諸国の間でのこうした都市間連携の普及が進めば、地方自治体の能力強化や持続可能性が目に見える形で改善されると思われる。

#### 事例7ー上海（中国）：ロッテルダム（オランダ）との連携による住宅整備プロジェクトの基盤整備

**都市間連携の背景ー**ロッテルダム（オランダ）と上海（中国）は、長年にわたって姉妹都市関係にある。ロッテルダムは、1980年代の終わりに、上海が取り組み始めていた都市住宅整備分野のモデル都市と考えられていた。ロッテルダム市当局は、住宅調査機関（IHS、オランダ政府の支援を受けている）の専門家と共に両市で一連の研修活動を実施し、フォローアップとして、上海の古い住宅が並ぶ街区で住宅整備の実証プロジェクトを行った。

**成果／教訓：**両市での専門家の視察と研修による経験の交換は、その後の実証プロジェクトの重要な基盤となった。古い家屋が立ち並ぶ街区の物理的な修復という面で成功をおさめ、代替的な手法を示すと共に、新しい修復技術を例証するプロジェクトといえる。

**明らかになった問題点：**この協力によって、直接的な都市間連携と中央政府による開発プログラムの支援を組み合わせるといった優れた手法が試された。しかし、実証

プロジェクトのフォローアップが無かったため、この事業の効果が十分に発揮されていないと考えられる。

#### 事例8ームタレ（ジンバブエ）：ハーレム（オランダ）との都市連携による廃棄物管理の改善

**都市間連携の背景：**1992年に形成された広範な姉妹都市関係を背景として、ハーレム（オランダ）とムタレは、ローカルアジェンダ21の下、住宅、社会奉仕、教育、廃棄物管理等、いくつかの都市サービスの改善に共同で取り組んだ。

**成果／教訓：**このプログラムには、家庭ごみや産業および有害廃棄物の処理、および投棄を管理するための基本計画の作成が含まれている。この計画は、NGOの協力を得て、徐々に実施されているところである。この都市連携によって視察や研修による援助が行われており、有害廃棄物の管理に関する国のガイドラインが作成されるきっかけにもなった。資金はハーレムの援助予算やムタレのコミュニティの財源、およびオランダ都市協会が管理する技術援助基金から拠出された。

**明らかになった問題点：**サービス改善における優先事項はムタレが決定したが、ハーレムから提供された情報が、生活条件改善の基準になっている。相互主義がこのプロジェクトの基本原則で、対話や双方の専門知識の共有にその面が現れている。連携のいずれの側でも、NGOの参加が基礎となっている。

#### 事例9ーバマコ（マリ）：アンジェー（フランス）との提携を通しての一次医療へのアクセスの改善

**都市間連携の背景ー**フランスは旧宗主国として、マリ経済に大きな影響を与えている。現在、約2000人のフランス人がバマコに移住している。他方、約2万人のマリ人がフランスに移住している。バマコは、1974年からフランスのアンジェーと姉妹都市関係にある。フランスの援助は技術協力、資金協力に大別でき、これには、両者の多数のコミュニティが参加している。

**成果／教訓：**バマコの生活水準の向上に大きく貢献したほか、フランス政府の後援を受けたアンジェーの諸機関からの技術支援の提供（民間部門の本格的な関与を含む）によって、都市間連携が促進された。主な協力分野は、いくつかのコミュニティ医療センターの提供、病院の設備更新、医師と看護師の訓練、医療品の提供等に

よる一次医療サービスの開発であり、この分野の都市間連携の有効性を示している。

**明らかになった問題点：**文化的要素を含む広範な連携活動が、アンジェーにおける異文化理解の促進や人種差別問題の改善に役立っている。NGO、コミュニティが多数参加していることから、今後どのように市民間の連携・連帯を醸成するかが課題となっている。

**事例10ーボロネジ（ロシア）：シャーロット（米国）との連携による障害者向けサービスの開発**

**都市間連携の背景**ーノースカロライナ州シャーロットは、障害者に対する法的保護が存在しないボロネジで障害者に対するサービスの改善に貢献した。シャーロット姉妹都市プログラムを通してボロネジのコミュニティやメディアと共同でサービスの改善に取り組んでいる。

**成果／教訓：**両市は、ボロネジでの機会均等、アクセス改善、障害を持つ人々の参加の拡大に貢献する優れたプロジェクトを開発した。シャーロットは、医療品の寄贈や医療専門家の交流を通して、ボロネジ・リハビリテーション訓練センター（VRTC）を支援した。VRTCは、分析、リハビリテーション、および障害を持つ若者の職業技能訓練と職業紹介を専門としており、医学的、社会的および職業的な障害リハビリテーションを奨励している。

**明らかになった問題点：**このプロジェクトは、広範な都市連携活動の中でも、相対的に発展の遅れたサービス分野での共同作業の重要性を示している。見落とされがちな分野での連携活動を如何に進めるかが今後の課題である。

**事例11ーグル（ウガンダ）：ローカルアジェンダ21に基づくランカシャー（英国）とのリンクの構築**

**都市間連携の背景：**ウガンダの議会協会との技術協力プログラムの策定を目的とした英国州議会協会の視察の際に、ランカシャー州計画局の職員が、初めてグルと連絡をとった。その後、グルとの協力の下、ローカルアジェンダ21プログラムの作成を目的とした共同プロジェクトが構築され、共同出資者である欧州連合からの資金提供を受けて実施された。

**成果／教訓：**欧州連合からの資金提供を受けたプロジェクトの終了後、ランカシャ

一は、直接的な資金援助を減らし、グルとの連携の遂行を非営利企業に委託している。この企業にローカルアジェンダ 21 情報の交換を継続させ、グルとの交流やコミュニティプロジェクトの拡大を行わせている。州議会の職員がこの企業の役員に就任しているが、連携に対する継続的な財政上の公約は行われていない。ウガンダ北部でのゲリラ活動の終息後、連携の度合いを強化し、コミュニティの関与を拡大するための措置が、両方で積極的に実施されている。このプログラムは、団体の顧問を務める職員の熱意から生まれ、その後、両者の側で発生した組織的な問題を乗り越えて存続している。現在では、この連携は、コミュニティレベルの活動として制度化されようとしている。

#### 事例12ーバーミンガムの欧州における都市間連携

都市間連携の背景：バーミンガムは、港湾都市ではなく内陸に位置し、産業革命後に急成長した歴史の浅い産業都市であり、「欧州」との歴史的紐帯をほとんどもっていない。しかし、1970年代以来、製造業の構造的不振に苦しんだバーミンガムは、ERDF（欧州開発資金）やESF（欧州社会資金）などのEU資金を受け入れることが可能であった。バーミンガムが「ユーロシティーズ」の活動に早くから参加して欧州の諸都市との政策交流にコミットしてきた背景にも、1980年代以降後退していった政府補助金に代わるものとしてEU資金へ向けられた期待があった。バーミンガム（英国）は、欧州の大都市（リヨン[フランス]、フランクフルト[ドイツ]、シカゴ[アメリカ]、ミラノ[イタリア]、ライプツィヒ[ドイツ]）と強固な姉妹都市連携を結んでおり、ユーロシティ等の経路を通して欧州のネットワーキングに積極的に参加している。都市毎、テーマ毎に相互の合意に基づく行動計画が策定され、定期的にレビューされているが、これには、EUの支援を受けることができる共同プロジェクトも含まれている。

成果／教訓：最近のプロジェクトはほとんどがEUからの支援を受けている。たとえば、公共建築物の照明に関するリヨンとの共同プロジェクト、運河再生に関するライプツィヒとの共同計画、都市サービス内でのベンチマーキング計画に関する経験の共有を目的とした欧州部局長ネットワークなどがある。さらに、同市の学校のすべての新任校長は、赴任時に姉妹都市の同様の学校に派遣され、教育制度に関する